



# THE TREND OF ACADEMISM

MONDAY, JUNE 1, 2020 VOL. 3

## 哲学系諸学の定義と固有の特性(西洋哲学領域)

日本学術会議哲学委員会は、哲学分野の参照基準検討の一環として、哲学系諸学の定義と固有の特性を取りまとめている。西洋哲学領域の概要は以下の通り。

西洋哲学は、現実の問題を根本的に問い、「世界理解のための枠組み」を解明しながら学問領域全体の基盤を提供する。古代ギリシアに始まる西洋哲学の主要な問題領域には、「存在とは何か」「何が存在するのか」を問う存在論、「われわれは何をいかにして知りうるのか」を問う認識論、「行為とは何か」「いかに道徳的に行為すべきか」という問いに即して価値や規範を主題とする倫理学・実践哲学などが含まれる。これらの根本的な問いを通して個別的問題が様々に提起され、相互に関連づけられ、さらには他の学問分野に越境し協働することで、社会哲学、政治哲学、法哲学、科学哲学、教育哲学、芸術哲学、宗教哲学、応用哲学、臨床哲学などの多様な領域が発展してきた。方法論としての西洋哲学の特色は、探究のための諸原理や諸概念を分析し、錯綜するそれらの関係を体系化することにある。しかし、この体系そのものも諸学問の発展と社会の変化に応じて問い直されうる。

西洋哲学の研究には、大きく二つの方向性がある。第一は、古典的テキストの正確な解読と、そこに提示されている学説を批判的に検討して根本的な改訂を加える作業であり、第二は、過去の学説や問題設定を超えて、オリジナルな問いを提示し、提示された問題の分析を試みることを通して、あらたな課題とその解決策を提示することである。また、「古典」と呼ばれるテキストは、現実の問題を深く掘り下げた多角的なアプローチの成果であるとともに、現実の問題に即してオリジナルな議論を展開するための豊富な手がかりを含むことから、この二つの方向性は相互補完的でもある。

諸原理や諸概念をあえて主題化し、その内実を問い、分析し、あらたな理論を構築したり、それらの成果に基づいて他の学問分野にも越境したりして不断に「世界理解のための枠組み」の構築を試みる西洋哲学では、知識の獲得・蓄積にとどまらず、問題提起の鋭さや視野の広さ、知識を導出する論証の論理性や整合性、また論証の根拠の確かさがとりわけ重要なのであり、この点において、西洋哲学は「論理的思考」や「批判的思考(クリティカル・シンキング)」を鍛える基盤を提供する。

## 歴史的思考力を育てる大学入試のあり方について

日本学術会議は、大学入試のあり方についての提言を取りまとめている。提言の概要は以下の通り。

歴史系の入試科目は、従来の「日本史」と「世界史」を廃止して、「歴史総合・日本史探求」および「歴史総合・世界史探求」とすべきである。また、大学入試の出題に際しては、次のようなことを考慮すべきである。①基本的な歴史

的知識(概念や時代像を含む)を問う問題と、多様な形式で歴史的思考力を測る問題をバランスよく配し、難易度の異なる問題を組み合わせるなどの配慮が望ましい。②教科書に掲載されている事実や史資料に関する知識を問うだけでなく、既知の知識や考え方をもとに未知の史資料や課題を考えさせる問題を積極的に出題する。③表・グラフや図像を含む多様な史資料を深く読み解く力を見る問題、また文脈に応じた判断の論拠や証明の方法の適切さを問う問題など、出題パターンを多様化する。(そのためにアクティブラーニングの過程を問題文に利用することはもちろんだが、高校の教育課程全体で思考力・判断力・表現力を育てることに鑑みれば、教科・科目の枠を越えた内容の出題も試みられてよい)。④知識を問うバラバラな小問を並べるだけでなく、複数の問いを関連づける、全ての問題の正解が一つの問題だけではなく、複数の正解がある問題も配置するなど、解答形式にも工夫する。

尚、本提言を受けて、次期学習指導要領では従来の選択科目「日本史」と「世界史」の廃止が決まっている。

---

## 生きる意味 -ウェルビーイングとリベラルアーツ-

日本学術会議は、大学と産業界両方の関係者が対等に議論し、近未来へ向けて双方が納得し推進できる提言を發表し、この提言をもとにシンポジウムと学術フォーラム開催、産学共創のあり方、人材育成、ベンチャー・インキュベーションを議論してきた。これらを受け、これからの社会のあり方を考える際に重要となる生きる意味について、ウェルビーイングやリベラルアーツに焦点をあてて議論する学術フォーラムを今期のまとめとして開催する。これまで、理工学の提案に人文社会科学が関わる形で学術フォーラムやシンポジウムを開催してきたが、今回は哲学を中心とした人文学の考えに生命科学や理学・工学が関わる立場で議論する。開催日は2020年9月20日、参加費無料。

---

## 東京大学、史料編纂所基金

東京大学は、史料編纂所の研究活動に支援を募っている。同所が収蔵する国宝「島津家文書」、17件の重要文化財をはじめとする重要史料などは、国民・人類共通の文化遺産であり、保存・修補のためには安定的で大きな財源を必要としている。

史料編纂所は、国の内外に残されている古代から明治維新に至る日本の歴史に関係する史料を蒐集、研究するとともに、その成果をふまえて、日本史研究の基礎となる史料集を編纂・出版。本所の事業の淵源は、1793年(寛政5年)、江戸幕府の援助をうけて国学者塙保己一が開設した和学講談所に遡る。明治になり、和学講談所の事業を継承して、当初は政府の直轄事業として、そして1888年(明治21年)10月からは帝国大学の事業として、日本史史料の研究・編纂を続けてきた。1901年(明治34年)に「大日本史料」と「大日本古文書」の第一冊目を刊行して以来、「大日本史料」「大日本古文書」「大日本古記録」「大日本近世史料」「大日本維新史料」「日本関係海外史料」「花押かがみ」「日本荘園絵図聚影」「正倉院文書目録」など、1100冊をこえる史料集を刊行している。

また、国宝「島津家文書」、国指定重要文化財「実隆公記」をはじめ、貴重な原本史料も多数所蔵。編纂の前提として、国内外において広く史料の調査・蒐集を行い、影写・謄写・模写・写真などの方法で、文書・日記・典籍・絵画などの膨大な複製史料を作成してきた。

東京大学では、これまでの研究活動を継承しつつ、全国・世界の研究者との共同によって新たな研究を展開し、学界・社会により開かれた研究所としてさらなる発展を目指す。さらに史料のデータベース整備充実や撮影・デジタル化費用、そして研究所で行っている様々な研究活動・編纂事業などに支援を活用することで、広く日本史研究に寄与する。

## 京都大学、文理融合・連携の教育を通じた人間の育成

京都大学は、文理融合・連携の学際・教養教育を通して、社会で活躍する実務者、指導者、研究者の育成をさらに推進すべく、そのための財政基盤の強化を目指して、総合人間学部／人間・環境学研究科基金を設立している。

同基金は、充実した学際・教養教育を行うための環境整備、人材育成と研究成果の創出のための基盤強化を目指して、特に、学生や若手研究者の国際交流活動や研究の支援、公開講座の開催をはじめとする社会との連携活動などに活用するもの。ユニットでは、京都大学が世界に誇るフィールド研究の伝統と先端的研究を融合し、グローバルヘルスの「知」と「活動」を先導することを理念に掲げ、設立以来、高校-大学連携教育の推進、グローバルヘルス教科書の出版、講義の提供、講演会・セミナーの実施、外部資金による研究、産学連携活動を実施している。

現代の高等教育では、研究・教育の専門分化が進行し、高度な専門能力が求められる一方で、複数の学問領域にまたがる深い教養に裏打ちされた、総合的な視野の必要性が高まっている。こうした中で、京都大学総合人間学部、人間・環境学研究科は、専門性を深めつつ総合的な視野から思考する人間を育成し、優れた研究成果を社会に還元することで、現代社会の要請に応えている。

## 東京藝術大学、ユーラシア文化交流センター

東京藝術大学は、新たな社会連携の一環として「ユーラシア文化交流センター」を創設。同センターは、ユーラシア全体の文化遺産の保護・修復・複製制作・遺産活用に関する情報を交流・蒐集し、文化的発展に深く貢献する国際ネットワークの構築を目指すもの。ユーラシアは、異なる文化が交差し、融合し、変容し、新たな文化を絶えず生み出してきた創造的な空間であり、また壮大な歴史空間でもあった。一方で、現在、グローバル化の浸透に揺動しながら、新たな文明の形成を模索し始めている。

ユーラシア文化交流センターは、我が国の経済・文化的な支援事業や関係諸国からの協力・支援要請などに着実に対応し、21世紀にふさわしい双方向的な社会連携・国際協働を推進する機能を果たすべく、①アフガニスタン特別展「終わりの彼方へ・バーミヤン青の弥勒とその世界」展の実施、②アジア仏教遺産緊急調査事業、③国際文化遺産保存修復病院の設立等の支援を募っている。

## ルワンダ、国公立文書館の建設が開始

ルワンダでは国立公文書館の建設が始まっている。場所は、首都キガリのカチル(Kacyiru)地区。同国に関する記録を保管する中心的な拠点になる予定。計画では10階建て、研究所、歴史図書館、展示室、コンピュータ室、文献複写サービス室、電子・デジタル記録室、そしてカフェテリアなどが設置されることになっている。

### 【主要支援先】

独立行政法人日本学術振興会  
公益財団法人日本学術協力財団  
公益財団法人菊葉文化協会

東京藝術大学130周年記念プロジェクト  
東京大学新図書館(AC)計画  
京都大学貴重資料デジタルアーカイブ

三思会

three-thought.com

